

新年のごあいさつ

院長 杉野 成

明けましておめでとうございます。皆様、それぞれの夢実現を望まれて良き新年をお迎えになられたことと存じます。私達職員一同は医療に携わる者としての立場から、皆様の夢達成への歩みを皆様に寄り添いながら支えさせていただき決意を新たにしております。

そのために、患者さんやそのご家族の皆様を中心に医師、看護師、薬剤師、放射線技師、臨床検査技師、臨床工学技士、胚培養士、理学・作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士、医療ソーシャルワーカー、看護補助者などの医療従事者による隙のない連携に加えて事務職員そしてボランティアの方々の協力も得て、手あついチーム医療を行うことに努めて参る所存です。



ところで昨今、政治、経済、自然環境…など、世情は不確かなうえさまざまな困難も横たわり社会不安が広がっております。医療の世界も例外ではなく医療費抑制策、医師不足やその他多くの要因が医療崩壊をもたらしていると言われますが、それは医療という社会的責任を果たさねばならない役割を担っている私達には許されることではありません。皆様に安全で質の高い医療を提供するために病院全体で取り組み、安心、信頼していただける病院に一步一步前進いたしますので、本年もどうか宜しく願い申し上げます。

今年の病院だよりの第一報をお届けします。まだまだ十分な内容に達していませんが、ご一読くだされば幸甚に存じます。

循環器内科

部長 成山 仁

循環器内科は、現在4人体制で日々の診療を行っております。私と日浦副部長、宮本医長、篠塚医師であり全員が平成19年4月からの赴任であります。一年半が過ぎ、ようやく軌道に乗ってきたと思われませんが、システムの変更に伴い患者さんにはご迷惑をおかけした事もあり、この場をお借りしてお詫び申し上げます。さて、現在外来は、毎日2診体制で予約外来と予約以外の外来に分けて行っております。

また、特殊外来としてペースメーカー外来も行っております。一方、循環器の検査にはレントゲンや心電図に始まり、心エコー・トレッドミル運動負荷検査・心筋シンチなどの外来でできる検査のほかに入院で行う心臓カテーテル検査があります。問診や診察所見をふ



まえた上でこれらの検査をもとに虚血性心疾患や不整脈、弁膜症や心不全等の診断を行っております。心臓カテーテル検査は年500件、経皮的冠動脈形成術は約100件、ペースメーカー治療は約40件といった規模で診療を行っております。

日々の外来診療においては、地域の開業医の先生方との病診連携も充実し、かかりつけ医制度も進行中で毎日たくさんの患者さんの御紹介をいただいております。また、日中はできる限り緊急の患者さんにも対応しております。

高齢化社会に加え生活様式の欧米化に伴い、循環器疾患の罹患率は年々増加しております。命に関わる疾患であり早期発見、早期治療が重要と考えられますので、できるだけ迅速な診断治療を心がけて参りたいと思います。

花粉症で困っていませんか？

耳鼻咽喉科 部長 宮田 啓史

花粉症は花粉に対するアレルギーで、スギ・ヒノキ・ブタクサ・カモガヤなどの花粉に出会うと鼻症状（くしゃみ発作・鼻水・鼻づまり）や眼症状（目のかゆみ・涙目など）が起こります。花粉症は、花粉に反応する特殊な抗体（IgE抗体と呼ばれるもの）を役に立つと信じて（実は害になっているのですが）体がせっせと作っている状態です。日本人の20%程度が花粉症といわれており、なかでもスギ花粉症が有名です。大阪近郊では今年は2月中旬ごろから本格的にスギ花粉が飛散すると予測されており、昨年（平成20年）の2倍位飛ぶようです。ここ3ヶ月ほどはスギ花粉症の人には憂鬱な季節になりますが、できるだけ症状を少なくして乗り切る方法があります。ひとつは、スギ花粉が飛ぶのを抑えることが出来ない現状では飛んできた花粉を吸い



込まないようにするしかありません。マスクやゴーグルを着用して外出し、家の中に花粉を持ち込まない為にツルツルした素材の帽子やコートを着用し、家に入る時に付着した花粉を払い落とすことが重要です。雨の日以外の窓の開放はもちろん厳禁です。室内に空気清浄機を置くこともある程度効果があります。

もうひとつは、アレルギー症状を抑える薬を使用する方法です。スギ花粉が本格的に飛ぶ1～2週間前（2月上旬ごろ）から第二世代抗ヒスタミン薬と呼ばれる薬を内服していると、花粉が飛んできた時には症状を抑える状態になっており、ひどい状態にならずにすみます。最近は眠気の副作用が少ない薬や鼻づまりにもある程度効く薬もありますので耳鼻科で相談してみてください。ただし妊娠中の女性はこのような薬を基本的には飲めませんのでご注意を。

クリスマスコンサート

平成20年12月23日、入院療養生活を送られている患者さんに、「楽しみ」「気分転換」などを図っていただきたいということで、JR西日本吹奏楽団によるクリスマスコンサートが開かれました。

病院スタッフで構成されたハンドベル隊との合同演奏もあり、アンコールも含めて11曲を演奏していただきました。入院患者さんやお見舞いに来てくださったご家族の方など、100人以上の皆さんに来ていただき、楽しいひとときを過ごしていただくことができました。



季節のレシピ

年末年始はアルコール量が増えませんか？

大酒を飲むと胃の粘膜がただれます。胃腸を労わるためにも、柔らかくて刺激の少ない食べ物が良いですね。

また水分補給も忘れずに。

しらす干と卵のおじや (4人分)

- 1 米1と1/4カップは洗って、水6カップに30分～1時間浸ける。
- 2 1を火にかけ、煮立ったら火を弱めて約30分煮る。
- 3 2に皮を剥いて短冊切りにした大根100g、人参30g、しらす干し20gを加え、10分煮る。
- 4 3に塩小さじ4/5、醤油小さじ2で調味し、割りほぐした卵4個を回し入れる。
- 5 4にざく切りにした三つ葉20gを入れふたをし、火を止めて5～10分蒸らす。

※ 280Kcal 塩分2.2g

健康講座のご案内

1月

日 時 ●平成21年1月27日(火)
午後6時から7時まで
場 所 ●大阪鉄道病院 講堂(3階)
講 師 ●大阪鉄道病院 循環器内科
部長 成山 仁
講演内容 ●「コレステロールについて」

2月

日 時 ●平成21年2月24日(火)
午後6時から7時まで
場 所 ●大阪鉄道病院 講堂(3階)
講 師 ●大阪鉄道病院「婦人科」の予定です。

3月

日 時 ●平成21年3月24日(火)
午後6時から
場 所 ●大阪鉄道病院 講堂(3階)
講 師 ●大阪鉄道病院「泌尿器科」の予定です。

その他 ●定員(60名)・無料

※ 予約は不要です

どなた様も、ご自由にお越しください。

大阪鉄道病院の理念

「私達は人間性を尊重し、
謙虚で誠実な医療を提供します」

1. 常に安全を積み重ね、患者さんから信頼される医療に努めます。
2. 常に地域中核病院としての役割を認識し、住民の健康増進に努めます。
3. 常に地域医療機関との連携を重視し、きめ細かな医療に努めます。
4. 常に専門性を追求し、医療レベルの向上に努めます。
5. 常に社会のニーズに応じて、働きがいと誇りの持てる病院づくりに努めます。